



平成 27 年度

上宮中学・高等学校

学校評価

— 学校自己評価書 —

 ENOMIYA

目 次

	(頁)
I 上宮中学・高等学校の教育理念	… 2
A 建学の精神 (mission)	
B 教育目標 (vision)	
II 学校評価のあり方	… 3
III 各分掌における評価項目と自己評価	
①教科	… 4
②学年	… 13
③コース	… 21
④進路指導	… 24
⑤教務	… 27
⑥生活指導	… 32
⑦入試対策	… 33
⑧保健管理	… 35
⑨教育相談	… 36
⑩データ処理	… 38
⑪生徒会	… 39
⑫人権教育	… 40
⑬図書・視聴覚教育	… 41

I 上宮中学・高等学校の教育理念

A 建学の精神 (mission)

本学園は浄土宗を母体とし、法然上人の仏教精神を教育理念の根底におき、知育・徳育・体育のバランスのとれた全人教育を目標に「上宮教育」を推進し、実践する学校である。

校訓「正思明行」は、仏教の八正道における正思惟に由来し、中学生・高校生として生徒一人一人が、自らの思惟によって、児童期にありがちであった自己中心的な身勝手な考え方の誤りを、明らかにし、正していくことによって自らを成長させ、青年として、自信を持って主体的に行動することを説いている。また、学順「一、掃除・二、勤行・三、学問」とは、浄土宗の『住持訓』に倣うものであって、掃除とは文字通り身の環境美化を意図するとともに、学ぶ心の準備を意味する。勤行とは学業に専念し精進努力することの価値を説き、それは単なる成果主義の否定でもある。学問は授業そのものに止まらず、人として正しい生き方、つまり、人倫を学ぶことである。掃除と勤行を学問より先に掲げるのは、成績至上主義に陥ることへの戒めであり、学順はその重要性において並列の関係にある。

B 教育目標 (vision)

上宮中学・高等学校の教育目標は建学の精神に基づき、法然上人が説かれた人倫と仏の慈悲の精神を多くの若者に分け与えることである。

時代の波が変化しても、建学の精神をもって人間道の目的理想を見つめる正真の眼を育て、また、理想に向かって励み進む剛健の足を育てることが本校の使命である。

教育の三本柱は「知・徳・体」の育成であるが、「上宮教育」はこの三本柱のバランスを重視している。その中でも、知・体に偏らず、他校ではできない心の教育の実践を目標とする。それは知識・学力の向上だけではなく、総合的な人間力を向上させる教育である。長い人生の礎を築くことこそが学校本来の役割であり、上宮の本旨である。

Ⅱ 上宮中学・高等学校の学校評価のあり方

[2007 年](#)の改正学校教育法において、[学校評価](#)の実施・公表に関する規定が整備された。それには 1 年間の学校の取組を振り返り、自校のよさや特色、生徒の成長等を確認し、より一層の充実に向けて改善の方向を明確にするために実施することが記されている。また、評価結果を外部に公表し、保護者や地域の人々に、生徒の成長、教職員の努力等を理解してもらい、学校への信頼を確かなものにしてもらうことが謳われている。

本校には「上宮中学・高等学校の基本理念と学校方針」があり、上宮教育の根となる「建学の精神」、茎となる「教育目標」、そして枝、葉となる「戦略・戦術」、「計画」が説かれている。上宮教育において、根と幹は揺るぎないものである。

各分掌・組織は「建学の精神」と「教育目標」を基礎としながら、有効な手段を用いて上宮教育を推進・発展させていく必要がある。そのため、年度毎に各分掌・各組織の現状を把握・認識し、自ら評価を下し、その反省の基に新たな課題と目標の設定を行わなければならない。この作業は本校の「戦略・戦術」の構築と実践であり、将来を見据えた「計画」のもとに行われるものである。それは上宮という木に光を当て、根や幹に栄養分を送るという重要な役割を果たすことになる。すなわち、枝振り（枝葉）はこの先に形を変えながらも、太く逞しい根や幹をもつ上宮という木を育てるのである。これが本校の学校方針である。したがって、本校にとって学校自己評価とは、「戦略・戦術」の構築・実践・改定を世に明らかにするものと捉えられる。

我々はこの作業において各分掌・組織のあり方を認識し、その中における自己の役割を認識する。それは教育職としてのスキルアップへと発展すべきものである。今後、我々は上宮のあるべき姿、すなわち未来を共通に認識することで、「個」の力を「組織」の力に変えていくのである。

Ⅲ 各分掌における自己評価

①教科

(国語科)

分掌目標	国語力—コースの目標に応じた入試に対応できる力だけではなく、生涯を通して生きる力の基礎となるもの—の充実	
	重 点 課 題	評価 成 果 と 課 題
①	・ 基本的国語力の充実を図る。 ・ 授業の厳正化を図る。	B 基礎力の充実がある程度図られたことは、入試結果に反映されていると思われる。授業においてもいわゆる「荒れた授業」はなかったと思われる。
①	学力推移調査・模擬試験の全体把握 ・ 結果分析と対応策の検討。	B 各先生方で、それぞれ個別に対応してもらっている。
②	教科会の活性化 ・ 情報の共有 → 定例化	A 月 1 回のペースで実施した。
③	補講習の充実 ・ 全教員（専任・常勤・非常勤）が全学年で実施 ・ コースの教育プランに基づいた（コースからの要請のあった）補講習が実施できるよう取り組む。	A 全コースにおいて、コースから要望のあった補講習は実施できたと思われる。
④	漢字検定・日本語検定の対策と活用 ・ 生徒への広報の徹底 ・ 漢検において、過去問に対して積極的な取り組みを促すことにより、合格率の向上を図る。	A 漢字検定・日本語検定の生徒への広報は徹底された。 漢検受検の前に過去問を解くなどの対応もしっかりできた。

⑤ 教育プランとシラバスの改訂 ・前年度作成した〈教育プラン〉と〈シラバス〉を、 現状に合わせて改訂していく。	B	28年度に向けて、必要な個所は 改訂できた。
---	---	---------------------------

(社会科)

分掌目標		・コース別（受験形態別）指導の確立	
重 点 課 題		評価	成 果 と 課 題
① 学力推進プランの検討について ・現状分析（授業内容を含め） ・3ヵ年及び6ヵ年における コース別推進プランの検討 ・高大連携を踏まえたプランの検討		B	各先生方の協力をいただき、中1～高3ま での各科目の教育プランが作成できた。 コース別、高大連携を踏まえたプランの作 成は十分ではなかった。
② 定期考査、模試の利用と活用について ・具体的な目標値の設定 ・分析と検討・対策 ・生徒指導への活用		B	個々の教員はできているが、その活用にお いて、教員間の共有化に至っていない。
③ シラバスの検討について ・学力推進に基づき、3ヵ年・6ヵ年 それぞれのシラバスについて授業を 展開しながら検討する		A	シラバスにほぼ沿いながら授業展開を進 め、評価をすることができた。
④ 教科会について ・教科会への全員参加 ・会議の定例化 ・教員間における情報の共有化		B	行事予定に教科会が組み込まれているが、 予定通りに実施するのは難しい。（補講習、ク ラブ活動など）

⑤ 補習・講習について ・全学年、各コースでの実施 ・実施内容の検討 ・学年・コースを超えた講習の実施	B	国公立コースを中心に実施されているが、すべてのコースで実施できてはいない。
--	---	---------------------------------------

(数学科)

分掌目標		
・ コースに応じた学習プランを作り学習効果を挙げる		
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題
④ 学力推進プランの作成について ・ 現状分析（授業内容を含め） ・ 3 ヶ年及び6 ヶ年におけるコース別推進プランの作成 ・ 高大連携を踏まえたプランの作成	B	4月の段階でだいたいの年間計画は立てられるが、年度により生徒の能力に差があり計画通り進むことができない。
⑤ 定期考査、模試の利用と活用について ・ 具体的な目標値の設定 ・ 分析と検討・対策 ・ 生徒指導への活用	B	教科書が終わることで精いっぱいなかなか模擬試験対策までの授業が展開できない。
⑥ シラバスの作成について ・ 学力推進に基づき、3 ヶ年・6 ヶ年それぞれのシラバス作成	B	各先生方の協力によりそこそこのものができあがった。あとは実践に基づき改良していきたい。
④ 教科会について ・ 教科会への全員参加 ・ 会議の定例化 ・ 教員間における情報の共有化	B	各先生方は講習、その他の公務を優先されているので、全員参加教科会が開けていないのが現状である。

⑤ 補習・講習について ・全学年、各コースでの実施 ・実施内容の検討 ・学年・コースを超えた講習の実施	B	どの先生も積極的に普段の講習はもとより、休暇中の講習もしていただき効果はできていると思います。
--	---	---

(理 科)

分掌 目標	理科の教員間での情報の共有化をはかる。 授業の充実をはかる（実験も出来る限り取り入れる）。	
	評価項目	課題
①教育プランの作成に向けて (作成にあたり配慮すべき事項) ・現状の問題点の把握 ・新学習指導要領「理数教育の充実」をはかる ・各コースの特色をいかす ・模擬試験等の活用を図ること ・生活適応力の養成を心掛けること ・教員の仕事の分担を配慮すること	B	昨年度分の再検討をするにとどまっている。
②シラバスの作成に向けて (作成にあたり配慮すべき事項) ・教育プランを基にすること ・授業担当者間で相談し、弾力的に運用する	A	授業進度・深度について、各学年・各科目担当者間での連絡は密にとり、検討できている。
③模擬試験等の結果把握に向けて ・試験問題の結果等の分析と対応の検討	B	各担当者で実施している。授業にフィードバックできていないのが現状。
④教科会・情報交換会の活性化に向けて ・各学年・各科目担当者間の連絡を密にする ・会議・打ち合わせ内容の徹底	A	定例的に教科会は実施した。
⑤補講習の充実に向けて ・補講習実施を前提とした授業の配当 ・補講習内容の検討 ・補講習が効果的に実施できるシステム作り	A	補講習実施を前提とした授業の配当を行い。 7時間目授業の実施や補講習も積極的に実施している。 本来の意味での補講習を充実させたい。
⑥教員の教育力向上に向けて ・各種研修会への積極的参加	B	なかなか、出張に出ることが出来ない現状である。
⑦授業の充実に向けて ・生徒の意識付け ・基礎学力の定着 ・応用力をつける	C	なかなか成果がでていない。

・授業内容に最新科学情報の盛り込み		
⑧実験授業の充実に向けて ・実験設備の管理計画の立案	B	積極的に取り組んでいる学年・コースもある。
⑨人権意識の涵養に向けて ・障害者等に対する配慮する（光、音、遺伝等）	A	授業時の表現には最新の注意を払っている。
⑩28年度以降のカリキュラム変更について ・高2，3学年プレップ文系、一貫プレップ文系の生物について	A	平成28年度入学生からは生物演習とすることになった。

（保健体育科）

分掌目標	生涯にわたって健康で明るく豊かな生活を送るためにスポーツに継続的に親しむ態度を育てる。また、規律ある態度を育てる。	
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題
選択体育の実施方法の充実	B	選択種目、授業方法等、継続して実施しているがまだまだ、改善し工夫できる点がある。 来年度に向けてさらなる充実を研究している。
中学、高校の授業内容、授業システム等の検討。	B	一貫生に対しては、中学との連携を図り継続性のあるものにさらに検討が必要。
規律ある態度の育成と活気のある授業を目指す。 自主的に授業に参加する態度を育てる	B	各授業で生徒自身がルールを守り、自ら授業を進め参加できるような環境を教員側が作るように努力していきたい。
体力・スキル・礼儀作法の向上。 生涯にわたりスポーツを楽しむ態度を育てる。	B	授業を通して、しっかりと知識を習得した上でスポーツを楽しめるような授業展開をさらにすすめる。
教員の資質向上 ○ 教材研究の徹底。 ○ 教員間の情報交換。 ○ 研究会・講習会への積極的参加。	B	保健体育研究会等の研究会や講習会への積極的な参加をすすめる努力が必要です。 教員間の情報、意見交換ももっと活発になるように努力したい。
生徒への対応	B	生徒の情報を正確に持ち、あらゆる生徒への対応に注意することを徹底する。

(英語科)

分掌目標	英語力向上への取り組みと情報の共有化及びその利用	
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題
基礎学力の向上と外国文化理解 正しい発音の認識と音読指導 英語に対する興味付け 単語テスト・既習事項の確認テストの充実 宿題・課題・補習の充実 教科書の本文だけではなく、それにまつわる 話題の導入や、修学旅行の事前学習	B	全担当者にCDデッキをいきわたらせ、音声 CDを購入・配布し、ネイティブの発音に触 れる機会を出来る限り提供していただいた コースによってばらつきはあるが、単語のテ ストや課題を増やし、また、放課後の補習や 課題提出も実施されている。
資格試験の情報を提供する。 GTEC・TOEIC の指導 Step Up ノートの事前配布や、事前学習 英検の情報提供	B	学年、コースによっては充実してきているが、 全体としての取り組みは改善の余地があるよ うに思われる。GTEC については今年度初めて 大学入試に使用したいという生徒(1 名)の申 し出があり、高 3 で希望者に実施した。大学 改革の動向をみながら、今後のあり方を検討 したい。
大学入試改革・「新テスト」の情報収集 H27 入学中学 1 年の大学入試時より導入予定 の「新テスト」の英語についての情報収集と その共有化	B	新しい情報や参加したセミナーなどの資料を 共有し、情報収集を図れるよう努力をはじめ た。今後、アクティブ・ラーニングの実践に 向けての情報も含め、教員間で情報を共有す るよう努力していきたい。
受験に対応した学力の養成 模試の分析 定期考査の充実 講習の充実	B	各学年での講習も実施され、進学実績に英語 科も貢献していると考えるが、現状に満足す ることなく、教材や授業展開なども共有しな がら、実績を伸ばすよう努力したい。
教員間における情報の共有化とその利用 教科内の教員、担当者同士など 教員間の情報共有・対話の充実 共有化した情報の利用	A	教材、テストなどの共有化をすすめ、また、 諸連絡や資料などのデータの共有は以前に比 べ、共有できる状況が生まれていると考える。

(芸術科)

分掌目標	個性豊かな表現と、鑑賞の能力を伸ばし、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。	
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題
芸術を親しみそれを愛好する心情を伸ばすようにする	B	高校1年次のみの実施のため、基礎的内容から、それを活かした応用へ移ることが難しいので、工夫が必要である。
芸術への関心を高めるよう内容を構築する (生徒の制作意欲を高める工夫をする。)	B	生徒の創作意欲の湧くような内容を検討していく必要がある。
表現及び鑑賞の能力を高める指導の充実を図る	B	制作などに時間をほとんど費やすため、鑑賞の時間をつくる工夫が必要である。(1年間の実施のなかで、いろいろ対応しなければならぬことが多く、難しさを感じる。)
教科会の活性化及び各学年コース・中高担当者同士の情報交換の活発化	A	情報交換は出来ていると思う。
各担当者の授業の実施方法について教科内の連携を図る	A	各科目の担当者どうしでの連携は、概ねとれていると思う。
共学化により、指導上において男女生徒への指導の仕方に差が出ないように注意する。	A	概ね出来ていると思われる。

(情報科)

分掌目標	授業で生徒のプレゼン能力の育成を図る指導をする。	
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題
生徒のコンピュータのスキルが向上するように指導する。	A	入学してくる生徒のスキル、知識とも片寄っているが、情報科の指導でスキル、知識とも向上している。
情報モラルの指導を徹底する。	A	近年スマートフォンによるSNSなどの問題が多数発生し、情報モラルの指導は多くの時間をとって指導しているが、家庭での教育も必要であり、保護者への講習等も必要である。

生徒のプレゼン能力の育成を授業内で行う。	A	授業でプレゼンをさせる機会をなるべく多くとり、生徒はプレゼンの経験をすることによって自己表現が豊かになった。班ごとに教員からコメントを手書きするなどきめ細かな指導が出来た。
詳細な年間指導計画を作成する。	A	例年通り詳細な年間計画を立てることが出来た。
教科内の連携の強化を図る。	B	個々の教員に制約があり、教科内で連携を取り、指導内容、授業進度などの打ち合わせを十分行うことが出来たとは言えない。

(宗教科)

分掌目標	宗教の授業で「釈尊」や学校祖「法然上人」などの宗教的偉人の生涯とその思想を学び、宗教行事（合掌の姿勢・態度）を通じて宗教情操の涵養に努める。		
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題	
1、各学年における授業内容の検討 ○ 授業の進め方の協議 ○ 授業内容及び進捗状況の連絡	A	細目に会議や意見交換の場を設けることによって、各教員の進行状況や進め方を把握することができた。	
2、教材研究 ○ 参考資料の検討 ○ 教材プリントの作成 ○ 教授資料の共有	B	従来通りの教科書を使っでの授業が多かった。もっと教材になるような資料の発見と研究が課題である。	
3、宗教行事について ○ 宗教行事における事前指導 ○ 行事関係部署との連絡・協議	A	宗教行事において、行事における意味をしっかりと生徒に説明できた。 行事において、各部署と連絡を取り滞りなく務めることができた。	
4、教科会の開催 ○ 月1回程度の定期的な開催 ○ 教科内での意見交換・情報交換	A	意見交流の場として、定期的に教科会をひらくことができた。その中で、多くの意見やアイデアがでてきた。	
5、宗教教育と道德教育 ○ 宗教教育と道德教育についての研究 ○ 宗教教育と道德教育の実践・推進についての検討	B	道德と宗教をどのような違いがあるのかをもっと研究しなければならない。その研究したことを、授業で実践していく必要がある。	

6、老人福祉体験学習 ☐ 実施施設との連絡・協議 ☐ 学習内容の検討	A	今年度も大きな問題もなく意義あるものとなった。生徒達にもおおきな刺激になり、今後の学校生活に多大なる影響を与えた。
7、ボランティア活動への参加 ☐ ボランティア情報の把握・収集 ☐ 災害などの募金活動 ☐ 寺院・地域への奉仕活動	C	ボランティアの活動に参加することができなかった。もっと機会を得る為に、情報を集め取組んでいきたい。
8、宗教関係学校との情報交換 ☐ 宗門関係学校との研究会 ☐ 仏教関係学校との行事	A	宗門関係学校と研修会を通して、多くの意見を交換することができた。

②学年

(高校 3 年)

分掌目標	生徒一人ひとりに寄り添い、生徒一人ひとりの進路保障をしっかりと確立。その視点からの生徒指導と進路指導を実践する。		
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題	
① 学年目標の設定 ・学校の教育理念 校訓「正思明行」の具体化 ・学順「一に掃除（心身の保健衛生・整頓済美） 二に勤行（勤労愛好と業務精進） 三に学問（智慧を完成する学問解明）の実践 特に教室の清掃については日々実践の事	A	御忌式で校長が頻繁に校訓、学順について話をしたので、生徒へ行き届いたと感じている。清掃については全クラスを見たわけではないが、担当クラスの清掃は行き届いていた。	
② 年間行事予定 ・高 3 オリエンテーション ・保護者対象説明会と学級懇談会 ・コースごとの生徒対象進路説明会 ・卒業式		概ね問題なく行われたと聞いている。特に、卒業式については、生徒たちは昨年の卒業式を知らないで、少し前の上宮らしい終始静粛な卒業式が執り行われたのは良かった。	
③ 学年運営及び学年会の活性化に向けて ・学年会検討事項の事前伝達 ・各コース間の連携 ・各大学の説明会への参加分担	B	活性化という点について、疑問が残るだけで、問題なく運営できたと思う。各コース間の連携は、これ以上は求められない。	
④ 補習・講習に関して ・放課後の補習講習の計画立案 ・夏期休暇前後の補習講習の計画立案 ・冬期休暇前の補習講習の計画立案	B	実施する期間、時間、科目数がコース間でばらつきがあった。特に、希望制にした場合、希望する生徒の数がコースによって違いがあった。	
⑤ 生活指導に関して ・基本的生活習慣の徹底 ・勤務状況の把握 ・「事故」未然防止の指導 ・生活指導部との連携 頭髪一斉指導への協力 ・配慮を要する生徒への積極的な関わり ・全教員が共通認識を持って指導にあたる。	A	生活指導部との連携という点では、学年主任も生活指導部会議に出席するため、うまくいっている。謹慎指導を受けた生徒は 2 名だけで、2 名とも反省態度が良く無事卒業した。	

⑥ 進路指導に関して ・進路指導部との連携 - 指定校推薦、高大連携入試と A0 入試、公募制推薦についての生徒の理解を得る（しっかりと理解したうえで受験に臨ませる） ・一般入試は後期入試まで諦めさせない。	B	入試結果について、最終ではないが、関西 8 大学（関関同立、産近甲龍）で言えば、昨年とほぼ同数であり、国公立大学も昨年並を期待している。
⑦ 学習成績の向上へ向けて ・各コースの特色が生かせる学習指導 - プレップ文系 - プレップ理系 - 技能 - 英数文系 - 英数理系 - パワー文系 - パワー理系 - 一貫特進文系 - 一貫特進理系 - 一貫プレップ文系 - 一貫プレップ理系 ・個人懇談及び三者懇談の実施 ・進路指導 LHR での積極的クラス運営 ・模試成績の結果分析会への参加 ・成績不振生徒及び保護者の召喚 ・成績不振生徒への指導	B	1 学年約 700 名の生徒を漏れなく成績を伸ばすことは不可能だとしても、まだまだ改善の余地はあると思う。学年全体で、「学習習慣の大切さ」が普段の学校生活の中で全生徒の共通認識となれば良くなるはず。その対策をどう講じるかが課題である。まずは、教員間の情報の共有が不可欠である。

（ 高校 2 年 ）

分掌目標	生徒一人ひとりをしっかりと見つめた生活指導と進路指導、および進路保障		
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題	
① 学年目標の設定 ・学校の教育理念、教育目標の具体化 ・生徒の主体性を培う	B	生徒個々の目標設定ができるように指導が出来たと思われる。次年度に向けてさらにキャリアについての指導を強化していきたい。	

② 年間行事予定の作成と実行 ・生徒対象進路説明会 ・保護者対象進路説明会 ・夏期休暇前後の補講習及び合宿 ・冬期休暇前の補講習及び合宿 ・春期休暇前の補講習及び合宿 ・成績不振者の召喚と指導	C	説明会は概ねうまく運営できた。 期末考査後の講習について、教科に偏りが生じるため、改善の必要がある。
③ 学年会の活性化に向けて ・検討事項の事前伝達 ・資料の事前配布 ・会議日、時間の設定 ・生徒への配布物を各担任へ配布	C	学年会は定期的に実施したいが、講習・クラブ活動・公休日の関係で困難であった。
④ 補講習、小テストの充実に向けて ・計画的な補講習の設定 ・継続的な補講習の実施 ・専任教員の重点配当 ・補講習が効果的に実施できるシステム作り ・補講習実施者への手当の支給 ・小テストの実施	B	各コースで計画的に継続実施できた。 ②の項目でも述べたように問題はあり、専任教員はボランティアとなるので、意識の改善が必要と思われる。
⑤ 生活指導 ・生活指導部との連携 ・頭髪一斉指導への協力 ・謹慎申し渡し及び解除への出席 ・基本的生活習慣の徹底	B	1年間を通じて大きな事故はなく、各担任の指導が徹底できた結果だと判断できる。
⑥ 進路指導 ・進路指導部との連携 ・模試の過去問題の印刷 ・模試の結果分析 ・学力向上へ向けての検討 個人面談、三者懇談の実施 ・高大連携に関わって 大学見学会の実施 推薦基準値の設定 ・各コースの特色が生かせる学習指導 プレップ文系 プレップ理系 プレップ技能 英数文系 英数理系 パワー文系 パワー理系 一貫特進文系	B	進路指導部が行った全体への説明会がかなり効果的であった。 模試の過去問題は教科担当が積極的に配布指導を行い、結果に反映しているように思われる。個人面談は担任によってばらつきがあった。

一貫特進理系 一貫プレップ文系 一貫プレップ理系		
⑦ 修学旅行 ・生徒対象事前修学旅行説明会 ・保護者対象事前修学旅行説明会 ・業者との打ち合わせ ・収支決算報告	B	事前学習が十分出来なかった。 修学旅行は引率教員・業者の協力のおかげ で大過なく終えることができた。

(高校1年)

分掌目標	生徒一人一人と向き合い、学習指導・進路指導・生活指導をしっかりと確立し、実践していく。	
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題
1 学年目標の設定 ・学校の教育理念 校訓の具体化 ・学順の実践 「教室の清掃は日々の実践」	B	概ね成果がありました。継続して行う。
2 年間行事予定の実践 ・コース別行事の実施 ・生徒、保護者対象の各種説明会の実施 ・学級懇談会の実施	A	学年団の先生のおかげで各行事と行うことが出来ました。
3 学年運営及び学年会の活性化 ・各担任との連携を計る ・配布物は各担任への事前連絡と配布 ・学年会（資料）の事前伝達 ・各コースの主任との連携	A	転・退学者の経過の情報交換。 活発な学年会の実施。 英数コースとの連携が薄かった（コース会議に参加してない）
4 補習・講習について ・放課後の補講習の実施（技能コースを除く） ・期末考査後の補講習の実施	A	各学期実施が出来た。次年度も活発に実施したい。
5 生活指導について ・基本的生活習慣の確立 ・勤惰状況の把握 ・「事故」の未然防止の指導（自己防衛） ・生活指導部との連携 頭髪一斉指導への協力 謹慎申し渡し及び解除への出席 謹慎生徒への指導 ・配慮を要する生徒への積極的な関わり ・全教員が共通認識を持って指導にあたる	B	各項目について協力・実施できた。 担任との連携も出来ました。

6 進路指導について ・進路指導部との連携 パスポート項目及び選考基準の等の検討 ・大学見学会実施への協力と指導 オープンキャンパスへの積極的参加 高大連携、指定校推薦入試のシステムの理解 ・2年次のコース選択について 文理選択の指導 コース変更の指導 各コースの特色の理解 ・進路LHRでの積極的活用	B	継続して考える。 協力・実施が出来ました。 理系選択者に対して数回の説明会を実施。理系選択の意思確認を十分に行った。
7 学習指導 ・学力向上対策 個人懇談及び三者懇談の実施 各教科との連携 ・模擬試験の結果分析の徹底 ・小テストと宿題の実施 ・成績不振生徒及び保護者の召喚と指導の徹底	B	一貫生徒の英語の成績アップしたことが大きな成果次年度も継続して行う。

(中学3年)

分掌目標	・ 充実した学校生活の確立と高校へつなげる学習習慣の定着をめざす。 ・ 学校行事を通して、人間的な成長を図る。		
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題	
中学3年生として、充実した学校生活の実践。	B	中学3年生として大切な学習習慣の定着に関しては、個人差はあるものの、まだまだ満足できるものにはなっていない。	
総合学習の企画と実践。 学習習慣の定着。	B	自分の将来のことを考える機会を様々な角度から持つように工夫した。今の自分にできることの実践がどれだけ大切なものなのかを個人の中で考えさせることができた。	
イングリッシュ・キャンプ及び勉強合宿、 修学旅行の企画と実行。	A	今年は費用を抑える点から、ECは勉強合宿(希望者対象)と兼ねた形で実施した。 修学旅行は事前学習を含め、充実した内容となった。	
校外学習等の学校行事の作成と実行。 卒業証書授与式の企画と実行。	B	卒業証書授与式の企画と実行については、予定通り進めることができた。残念ながら、校外学習(裁判所見学)に関しては、受け入れ側の制約があり、実施できなかった。	

学年からの宿題、早朝テスト、補講習（進学特別補習含む）等の企画・運営	B	予定通り実践できた。補講習については中程度の学力を有する各生徒への対応が十分にできていない。部活動との両立を進めながらも、補講習の充実が求められる。
学力推移調査結果の把握と学年としての取り組み案作成と実行	B	学年団の中で、学力推移調査の結果については、把握ができています。各教科で、習得していない分野などについての更なる取り組みが必要である。
学年会および授業担当者同士の情報交換の活性化	A	学年が3クラスであり、生徒数も98名ということもあり、必要に応じて学年会および授業担当者間の情報交換がスムーズに行うことができた。
保護者説明会の企画と実施	A	予定されていた保護者説明会については、各教員と相談しながら進めることができた。できるだけ多くの保護者に参加していただけるように、工夫しなければならない。

（ 中学2年 ）

分掌目標		・ 基本的生活習慣の確立と基礎学力の定着に向けた指導。 ・ 保護者との連携による、家庭学習習慣の定着と自学自習力の育成。	
重 点 課 題		評 価	成 果 と 課 題
1. 6カ年教育プランに基づく中2学年目標の設定と実践		B	上記の目標を設定し、その実践に努めたが、学習習慣の定着の点ではこれからも一層の取り組みが必要である。
2. 基礎学力の定着に向けた、宿題・早朝テスト・補講習等の企画と運営		A	国語・数学・英語の早朝テストを曜日毎に振り分けて実施すると共に、補講習を実施していただいた。
3. 家庭学習習慣の定着に向け、日々の宿題や長期休暇中の宿題・課題の調整と実施		B	長期休暇中の宿題・課題については、学年で把握するために調整を行ったが、日々の宿題については関与できなかった。
4. 学年関連行事の調整・行事予定の作成、および企画と実施		A	宿泊行事である勉強合宿・琵琶湖合宿・スキー実習の企画と実施、また、校外学習の企画と実施を、学年団の先生方の協力のもとに実施することができた。

5. 学力推移調査の結果分析と、学習指導面へのフィードバック	B	学力推移調査対策としての過去問対策を行うと共に、本試験の結果分析会で生徒の現状把握を行った。一方、指導面へのフィードバックは教科まかせになった。
6. 学年の3クラス間における横の連携と、学年団全教員間での情報共有による学年運営	A	組担任・授業担当者から出てきた個々の生徒の現状を把握し、早期対応に活かすと共に、学年団での共有に努めた。
7. 学年と各分掌（生活指導部，進路指導，入試対策部，各教科）との連携，および情報の共有	B	各分掌の学年係りの先生を中心に、各部署と学年間の情報共有に努めた。学年に係りの先生がおられない部署については、連携が取りにくかった。
8. 保護者説明会，三者懇談，学級懇親会，授業参観，日々の連絡等を通じた学校と保護者との密な連携	A	担任・副担任を中心に、電話や面談を通して保護者と密に連絡を取り合い、生徒指導に活かした。

（ 中学1年 ）

分掌目標	・ 学校生活の充実に向けた，基本的生活習慣および学習習慣の定着化 ・ 保護者との連携による，生徒の自学自習力の育成		
重 点 課 題	評 価	成 果 と 課 題	
1. 充実した学校生活の実践に向けた生徒指導の確立。	B	様々な学校行事の企画・運営に努め、充実した1年間であったが、学習習慣の定着という点から不十分なところもあった。	
2. 家庭学習の習慣付けに向けた取り組み	B	国・数。英の早朝テストの実施、休暇中の宿題を課すなど取り組んでいた。生徒の二極化がみられる。下位層に対する指導の徹底が不足がちであった。	
3. 基礎学力の育成と定着に向けた，学習指導面への取り組み	B	一定の効果がみられるが、下位層に対する指導が不足していた。	
4. 学力推移調査の結果分析と，学習指導面へのフィードバック	C	対策として過去問を実施または配布した。内容的に進度が追い付かず、一部の教科（英語）では残念な結果であった。	

5. 校外学習、勉強合宿、スキー実習等の 行事企画と適切な運営	A	学年団・保健室の先生方の協力で、満足で きる行事であった
6. 学年の3クラス間における横の連携、 および情報の共有による学年運営	A	組担任・副担任・教科担当からの情報を共 有し、適切に運営できた。
7. 学年と各部署(生活指導、進路指導、 入試対策、各教科)との連携、および 情報の共有	B	各分掌の係りの先生と連携し、情報共有に 努めた。
8. 保護者説明会、三者懇談、授業参観、 学級懇親会等を通した、学校と保護者 との連携強化	A	担任・副担が中心となり、保護者との連絡、 報告等を密にし、学校教育に理解を深めて 頂いた。

③コース

(6 年一貫コース)

分掌目標	中高6年間を通じて生徒が将来の自己像を描きつつ、自律的学習者となれるよう指導を行う。各学年の学力向上策の促進、提案を行う。		
	重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題
	6 年間のカリキュラム 教科別の実施内容の検討 コース再編成を視野に	C	コース再編の議論はあまり進行しなかった。
	六ヵ年での補講習プランの検討 中学1年生から高校3年生まで六ヵ年での補講習プランをシステム化	B	六ヵ年一貫としては補講習（特に学期末）の充実はできているが、他のコースとの協力・協調が難しい。学校全体での取り組みが必要。
	行事・企画 学校の行事と6ヵ年一貫コースの行事の精査・改善	B	六ヵ年一貫としての行事は、現在すでに中学・高校共に行事は充実しており、現時点では追加すべきものはない。
	キャリア教育 中学校総合学習の充実と高校進路学習の充実	C	着手できず。
	大学入試改革・「新テスト」への対応 平成27年度中学1年生が大学入試より導入予定の「新テスト」に対応する為の情報収集	B	情報収集に努め、会議で情報共有はできた。大学入試改革へ向けて、六ヵ年としてどのように対策をうつかは着手できず。

(プレップコース)

分掌目標	○生徒の現状に即した連携・指定校推薦のシステムの企画運営。 ○学力を中心とした生徒の総合力を伸ばすための具体的施策を行う。 ○推薦入試にとらわれない新しいプレップコースのあり方を考える。		
	重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題
	連携・指定校推薦入試枠にとらわれない新しいプレップコースのあり方について研究する	C	連携・指定校制推薦枠を利用して大学進学した生徒は157名で在籍数の28.9%。残りの生徒に対する有効な戦術は確立できなかった。
	生徒の現状に即したパスポート項目および基準の検討	B	各項目とも問題があり、見直す必要がある
	生徒の現状に即した連携・指定校制推薦入試の最終選考方法の検討を継続する	A	現行ルールが確立して、4年目。ルールの文書・冊子化を進めた結果、教員・生徒にも周知徹底できるようになった。

プレップ科の授業内容の工夫。とりわけ高3の2学期と高2の3学期のカリキュラムに新しい工夫を導入する	C	プレップ科の授業内容は、今後も創意工夫が必要である。
大学見学会の企画・運営	A	高1・高2の大学見学会、および希望者による女子大見学会は、ほぼ形が完成してきている。
連携大学との良好な関係維持のための新たな工夫。未来型の連携の形を研究する	B	まだまだ工夫の余地がある。大学側からの提案だけでなく、こちらからも連携内容に対する提案をしていく必要がある。
生徒に対するプレップの内容の周知・徹底 3年間のビジョンを明確にさせる	A	プレップコースに関する情報は、資料をまめに作成し、進路説明会・プレップ会議・プレップ科等を利用して適切に提供できた。
教員に対するプレップの内容の周知・徹底	A	各学年プレップコースの担任には徹底できたと思うが、他の先生にも情報を発信する必要があるのではないか。
プレップコース生徒の具体的学力増進策を講じ、成果につなげる	C	各学年とも、受験につながる科目については放課後の講習を実施してもらったが、どうしても希望制になってしまう。
家庭学習・自主学習できる生徒にするための具体的方策を講じる	C	新しい方策を打ち出すことはできなかった。
学校全体に対して、プレップコースを理解してもらうための適切な情報発信を定期的に行う	C	教職員全員に対する報告は年度末の1回に留まった。

(英数コース)

分掌目標	各学年の生徒に応じた学習指導を実施する。 大阪大, 神戸大, 大市大, 大府大への合格者をふやす。		
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題	
学力向上に向けての指導の徹底	B	上記大学合格者2名を含め、国公立大学合格者が前年度の6人から8名に増えた。 来年度も、さらに上を目指して指導していきたい。	
講習の充実	A	放課後・長期休暇前の講習を各学年で立案し、効果的に実施できた。	

模擬試験の分析 生徒個々にまちがった箇所を確認させる	C	スタディサポート・進研模試の結果を表にして見てもらった。が、分析や対策までは手がまわらなかった。
大学見学会の実施	A	2年生で大阪市立大学の見学会を計画し、実施した。生徒の印象もよかった。
二年次からのコース選択（1年）	A	二者面談を充実させ、できるだけ英数コースに残すという考えのもと、各生徒のコース選択を話し合った。おおむね満足していると考ええる。
個人面談の充実	A	各学年とも二者面談や三者面談を充実させ、生徒個人の把握に努めることができた。
情報の共有化	A	週1回英数コース会議を行い、所属学年だけでなく、他学年の事案も話し合い、情報の共有化を図った。

（ パワーコース ）

分掌目標		東大、京大、阪大をはじめとする難関大学への合格者の輩出	
重点課題		評価	成果と課題
① 自立した学習者の育成		A	勉強法指導講習会を年間10回実施することにより、1年生については相応の効果は見られた。2，3年生に対しての継続的な指導が課題。
② 分掌目標達成に向けた各種行事の再検討		A	年度末総括会議を開き、常に行事の見直しはできた。新たな行事の組み込みが課題。
③ 生徒の学力向上と希望進路実現に向けた指導の充実		B	例年と同じような学力の維持はできているが、3年生の進路実績には結びつかなかった。その原因と対策が今後の課題。

④進路指導

(進路指導部)

分掌目標	生徒が自分の将来に夢や希望を抱き、自分の意思で主体的に進路を選択する能力を育成する。また希望の進路に進めるよう、模擬試験の結果活用や補講習・講座などの充実を図り、学力向上をサポートする。		
重点課題	評価	成果と課題	
各コースと連携して「進学実績」向上のための具体的施策を行う ①国公立大学、とりわけ京阪神、大阪市立大学・府立大学への合格者数を増やすための手立てを考え実行する。 ②関関同立、とりわけ関西大学への合格者を増やすための新たな手立てを考え実行。 ③産近甲龍、とりわけ近畿大学への合格者を増やすための手立てを実行する。 ④上記を支える生徒の学力増進策を再検討。 ⑤進路説明会・進路HRの内容を検討する。	B	本年度取り組んだ主な具体的施策は以下の通り。○「大学合格（準備）講座」の継続。事務補助 1 名を採用した。○進路指導室前に「大阪市立大学・府立大学」「関西大学」「近畿大学」の特設コーナーを設置。○進路指導室前で関関同立・産近甲龍の学校案内・入試要項配布。○12 月に関西大学入試センター課長を招き希望者対象に出願に関する説明会を実施。○新入生（高 1）入学直後に進路説明会を実施。○全学年の進路説明会をスライドプレゼン方式に転換。	
データの集積・分析・提供の促進 ①進路指導に関する大学・専門学校、資格取得・就職関係の最新の情報やデータの収集・整理に尽力する。 ②生徒の学習状況・進路志望動向を把握して、更なる成績向上の手立てを考える。 ③進路指導に関する内外の資料・データを活用して、教職員に対して有用な進路情報の提供を行う。 ④模擬試験結果の分析会を定期的の実施し、組担任・各教科担当先生に科目別・分野別学習到達状況を提供する。 ⑤進路指導部と各コースとの連携、および各コース間の情報共有の促進。	C	本年度取り組んだ主な具体的施策および問題点は以下の通り。○昨年初めた『月刊蛍雪時代』配布を継続。しかし先生方の活用状況にばらつきがあり、情報を生かし切っていない。○昨年度からスタディーサポート・模試成績データを成績原票ロッカーに入れた。またベネッセによる分析会も継続実施したが、先生方の出席率が低く、学校全体としての進学に関する問題意識の低さが憂慮される。更に実効のある分析報告会や目標設定が必要である。○各コース間の連携は依然として進まず。来年度は踏み込んだ手立てが必要である。○大学合格状況中間報告は一部大学で実施できたが更に促進すべきである。	
プレップコースの「パスポート項目」の見直しと大学との連携・見学会の充実をはかる	C	プレップ主任主導でアンケート方式により、見直しのための意見収集を実施した。	
進路指導に対する内外の評価の向上を目指す ①生徒にとって親しみやすく相談のしやすい進路指導部になるよう工夫する。 ②総合的に、進路指導に対する保護者・生徒満足度を向上させる。 ③生徒・保護者への新たな情報提供の施策を考える。	D	大きな改善はできなかった。進路指導室の構造とスペースの限界と 7 号館の進路情報が少ない点が問題である。 すぐに改善できる施策として、進路指導部からの保護者向けメール配信を更に積極的に行うことが効果的だと思われる。	

進路指導部発信の Global 教育・キャリア教育 について研究を進める	A	来年度中学 1 年生の英語にネイティブ講師の 採用（6 時間中 4 時間）決定。羽根卓也氏に よるアクティブラーニングセミナーを実現。
---	---	---

（ 進路指導部 学習指導係 ）

分掌目標	生徒が自分の将来に夢や希望を抱き、自分の意思で主体的に進路を選択する能力を育成する。また希望の進路に進めるよう、模擬試験の結果活用や補講習・講座などの充実を図り、学力向上をサポートする。		
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題	
中学学力推移調査 ・ 年 2 回実施の準備・実施 ・ データの活用 ・ 分析会の設定	B	滞りなく、実施できた。	
高 1（新入生）オリエンテーション ・ 各教科から資料を取りまとめ配布 ・ 配布するだけで終わらないように活用	A	新入生に配布している DISCOVERY を学習ガイドダンスとしての役割のみに集約させた。配布するだけでなく五教科主任先生によりオリエンテーションの中で、学習に対するアドバイスをしてもらった。	
進路 LHR の内容の見直し ・ 進路ノートの内容 ・ ノート以外の企画（講演会など）	B	大学入試改革を踏まえた過渡期で進路指導 LHR の見直しが時期的に困難であり、着手できなかった。抜本的な変更となると相当な準備期間が必要であり、進路 LHR 専属の係が必要であろう。	
高 1 校内模試 ・ 校内模試（年 3 回）の準備・実施 ・ データの活用 ・ 分析会の設定	B	◆ 1 年 3 年に関しては滞りなく、実施できた。 高 2 年に関しては担当教員が今年度初めて進路指導部に所属、また模試係も未経験のみならず、7 号館に駐在しており、慣れない模試業務にかなり苦労があったようである。理想としては模試係の配置は業務が単純な高 1 から慣れて、高 2、高 3 と持ち上がりできるような体制で人員配置すればトラブルも極力回避できる。 ◆ スタディーサポートに関しては進路会議で、年 1 回春のみの実施で良いのではと決議した。主任会議に提案したが、審議は進行していない。 ◆ 分析会は他の行事などと重なり、年 1 回のみの実施となった。コースごとに少人数での分析会が理想である。 ◆ 毎回成績資料を作成し、各クラスの成績ロッカーに入れた。資料の有効活用が次の課題	
高 2 校内模試 ・ 校内模試（年 3 回）の準備・実施 ・ データの活用 ・ 分析会の設定	B		
高 3 校内模試 ・ 校内模試（年 5 回）の準備・実施 ・ データの活用 ・ 分析会の設定	B		
スタディーサポート ・ 高 1 高 2、年 2 回の実施 ・ 事前学習教材の準備と活用の案内 ・ データの活用 ・ 分析会・結果活用勉強会の設定	B		

		である。
外部模試 ・案内と取りまとめ ・データの活用	A	案内と取りまとめについては滞りなく、遂行できた。特に、今年度より現在申し込み中の模試について申込期間を廊下に掲示したためか、申込みを遅れて来る生徒がほとんどいなくなった。申込みに関わる雑務に追われ、データの活用は各コース、各担任任せであった。
進路だより ・大学入試情報、大学学部学科情報など生徒保護者に役立つタイムリーな情報の発信	C	発行できず。
放課後の補講習 ・放課後の補講習実施のとりまとめ ・学年ごとに一覧表作成、学年・コースに実施が充実していないクラス・科目の改善を要望	C	放課後の補講習については、各コース主任が作成する計画表に基づき、各教科主任が補講習を組めるように時間数、講師先生の担当学年等の配置を決定している。学習指導係が補講習の実施に関して、要望を出すことはしていない。教科、コースで検討するのが妥当。
講座制授業（夏期講座） ・教員からの開講講座のとりまとめ ・時間割の作成、生徒への要項の配布 ・申し込みの受付・講座ごとの名票作成	B	多少のトラブルはあったが、遂行できた。夏期講座の常勤、専任教員の手当ての議論があり、学校に決定を一任した。・
ファインシステム ・模擬試験分析ソフト、ファインシステムの管理と各教員が使える環境作り	B	来年度はPCの環境さえ整っていれば、各職員室に1台ずつインストールを検討。
進研模試デジタルサービス ・生徒・教員の活用促進	B	3年目に入り、ずいぶんと定着して来た感があるが、生徒・教員共に使っていない人は全く使っていないようである。使っている生徒も成績を早期に確認できるというメリットから、その際のみ使っている生徒が多い。復習への利用促進を促したい。

⑤教務

(高校教務部)

分掌目標	各種学校業務の円滑な運営に寄与しつつ、行事内容の改善、各種業務の改良を心掛ける。	
重点課題	評価	成果と課題
I 部長		
①教務に関する事項についての連絡調整及び指導助言	B	昨年度よりはスムーズにことを運べたように思う。
②教務部会の召集	A	できる限り実施し、意見交換ができた。
③校務に関する改善案の提言	A	よく検討し、改善案を提出した。
④入学試験の準備・運営	A	概ね、滞りなく実施できた。
⑤教育計画の実施に際しての調整、指導助言	B	多くの意見を提出した。
II 行事企画運営係		
①行事について情報収集・検討・集約	B	概ね、例年通り実施できた。
②各行事の企画・運営	B	概ね、例年通り実施できた。
③各行事についての保護者連絡	B	概ね、例年通り実施できた。
III 修学旅行係		
④各種情報収集・検討	B	概ね、例年通り実施できた。
⑤高2学年団への情報伝達・指示	A	情報伝達は学年主任・隊長を通じて行った。
⑥高2保護者への内容説明	B	概ね、例年通り実施できた。
⑦現地での交渉・各種準備	A	概ね、例年通り実施できた。
⑧次年度に向けての検討	B	正解情勢が不安定なので、より安全な修学旅行になるように情報収集した。
IV 時間割係		
①新年度時間割作成 授業内容・選択科目・教員の都合等の制限項目が時間割作成に困難さをもたらしている。制限項目の減少に向けて提言を行う。	B	講師先生の白コマ制限が今年も多かったため、時間割作成が困難だった。また、年度末ぎりぎりでの発表なので、作成にあたり、かなり時間的に厳しいものであった。
②通常時間割変更 『補欠は罪、振替えは義務』をスローガンに自習授業の撲滅に向けて提言を行う。	A	振替がかなり浸透してきたため、過去と比較しても補欠数が減少してきているので成果があったと思う。
③定期考査時間割作成 教科間に不公平感が出ないように努める。	A	連続授業の考慮や、本館と7号館の授業を持たれている先生は移動に支障がないように配慮して作成した
④考査監督作成	A	考査監督時間数に不公平がないように作成し

教員間に不公平感が出ないように努める。 監督の交代は教員間の個人的やりとりで解決する仕組みが浸透してきたため、円滑に遂行できている。		た。出張・欠勤等による監督のやり取りも浸透して来ているので、大きな支障はなかったように思える。
⑤ 考査問題管理・授受 考査問題提出期限を設け、考査前日に問題提出を確認するため、トラブルは減っている。 先生方の個人的ミスに対しては、その場での指導と啓発活動に励む。	A	一部、まだ考査提出期限を守ってもらえないので、その徹底を図っていききたい。また、考査当日までの監督確認の徹底を図るため、様々な場所に監督表を掲示した。考査監督表を学年色に色分けした事で取り違えも以前よりは減少したと思う。
⑥ 行事に伴う時間割変更 消滅する授業が復活する場合にミスが発生しやすい。復活した授業担当者が不満を言うことに対しては、強く指導する。	A	あらかじめ把握している行事に伴う時間割の変更等は各学年主任を通じて連絡をしていたため、大きな支障はなかったと思われる。
⑦ 時数計算表の作成	A	事前に行事を確認し、行事を消化するたび時数計算を行っていた。また、授業日数も月ごとにカウントしていたため大きな訂正はなかったと思われる。
⑧ 職員会議・行事時の教員の出欠確認 会議等の理由無き欠席者に対して何らかの措置をとらないのなら、出欠確認は不必要と思われる。	A	行事における出欠は確認していたが、職員会議等の会議における出欠確認は今年度も行わなかった。この点においても大きな支障はなかったと思われる。
⑨ 欠勤・遅刻等の届けの確認 欠勤・出張等について、常習的に届け出ノートに記載しない、電話連絡が遅い等の教員に対しては強く指導する。	B	事前に分かっている欠勤等は届け出ノートに記載してもらうことは浸透してきている。しかし、届けは出しているがノートへの記載がないという事が見受けられた。また、第2土曜日の週に公休日があると勘違いされている先生方がまだ、多数おられるので周知徹底していききたい。
V 書類帳簿・教科書係		
① 教務日誌 教務日誌は漏れの無いよう万全を期す。	B	日誌の出欠日計欄で、どうしても遺漏が生じた
② 掲示物 各種掲示物の整理整頓を期す。	A	例年通り、適時期に適所に掲示した。
③ 調査書・成績証明書等の発行	A	例年通り、何とか必要時に発行した
④ 各種書類の作成・発注・管理	A	例年通り、何とか必要時に発行した
⑤ 指導要録作成補助	B	電子化をさらに推し進められなかった
⑥ 教科書・副教材の採択指示・点検 教科主任と担当者での二重のチェック体制を	A	教委に報告するほどの変更はなしで済ませられたが、教科によっては、チェックに戸惑っ

取り、万全を期す。		た。
⑥教科書・副教材の採択報告・発注・管理	A	目下、どうにか宅配送付しつつある
⑦入試資料の作成	B	判定会直前に再印刷することになった
VI庶務・内規係		
①教室配当の決定	A	時間割係と打合せの上、作成できた。
②教員配置の決定	A	各分室との打合せの上、作成できた。
③パーソナルロッカー搬入・設置・廃棄手配 生徒のパーソナルロッカーについて、事務局に指示する。		事務局に指示した。
④体育大会当日の受付とその準備		実施せず。
⑤文化祭当日の受付とその準備		実施せず。
⑥高校入学試験関連の用品の手配		時間割係が遂行した。
⑦破損届受付及びその修理依頼	A	滞りなく遂行した。
⑧消耗品の補充	A	滞りなく遂行できた。
⑨教職員に対して、内規の周知・徹底		平成28年度には改訂版を作成予定。
⑩特別指導実施報告書の周知		教務部長が手配した。
⑪内規の内容の検討・見直し		平成28年度には改訂版を作成予定。
VIIカリキュラム		
①保護者対象説明会にて解説	A	わかりやすい説明を心掛けた。
②新任教員へ説明	B	短時間のため、ポイントのみになった。
③教育実習生へ説明	A	教育実習生には馴染みがない内容である。
④次年度カリキュラムの検討	A	改訂を無事に完了した。
⑤教科単位数の点検	A	確認を繰り返した。
⑥調査書単位数の点検		実施せず。
⑦教員へ研修会等の伝達	B	ポスター等の掲示のみ
VIII保護者会係		
①保護者会に関する事務	A	滞りなく実施できた。
②各組学級委員の募集補助・各種連絡	A	滞りなく実施できた。
IXその他		
①インターンシップ学生受入れ手続き・運営	A	滞りなく実施できた。
②各種印刷物の作成・配布	A	滞りなく実施できた。
③芸術鑑賞会の立案・外部との交渉	A	滞りなく実施できた。

(中学教務部)

分掌目標	全人教育における生徒の人間力の向上に繋がる行事等の計画と実践。 6年間一貫教育における生徒の学力向上のための方策の計画と実践。		
重 点 課 題		評価	成 果 と 課 題
日々の行事の運営 行事の計画と実行・改善 (各式典、体育大会、文化祭、合宿など) 中学から高校へスムーズに進学できるための方策の検討 教務係との業務の連携、運営 行事企画運営(日々の行事の確認、各行事の企画・整理、) 時間割(日々の時間割の変更・補欠の確認、考査に関する 事項の確認、考査監督表の作成、問題の管理と答 案の授受) カリキュラム(現行のカリキュラムの改善点、次年度以降 の考察、総合学習の検討) 書類帳簿(教育委員会提出用書類作成、教科書類のとりま とめと発注、転学生徒用書類の作成、教務日誌 の作成、指導要録の作成指導、書類帳簿備品の 整備、評価・評定の記入依頼) 庶務(物品物・消耗品関係の点検、各教室備品関係の点検、 各教室の配置、職員室の配置の検討)		B	概ね当初の予定通り行事の運営は行えたと思う。ただ、中学から高校への進学は決してスムーズとはいいがたく、今後の検討課題である。
		A	教務係りの先生方との業務の連携、運営はしっかりできたと思う。
教員間の情報の共有・連携 (生徒の事故、トラブルの把握、対処、防止)(成績面で の現状の認識、問題点の共通認識、改善策の考察)		B	中学の職員室内や生活指導部、主任会を通じて、教員間の情報の共有・連携はスムーズであったと思う。
中高教務の連携(日々の業務の情報の共有化、問題点の共 通認識、解決策の模索)		C	日々の業務の共有は、連絡が密でなかったこともあり、できなかった部分が多かったと思う。
会議や連絡会について (伝達内容の確認、懸案事項の点検、考察)		B	概ね、よかったと思うが、高校の進級に関する変更については、今後の検討事項である。
教務会の円滑な進行について (教務としての意見の取りまとめ、検討事項の考察→決定 事項の報告)		A	概ね、円滑に行えたと思う。先生方も積極的に意見を述べてくれた。

コース再編の目標の明確化、中学校での取り組みの具体化 (魅力ある生徒の育成) (進路学習の充実) (読書指導の充実) (早朝テスト、補講習の充実)	B	教頭先生を中心にコース再編の目標は明確化できたが、具体的な取り組みに関しては、これから検討していかなければならないところもある。
六ヵ年を見据えた教育の充実	B	まだ、まだ検討しなければならない課題ある。
校外学習および総合学習の充実と積極的な取り組み (進路学習、社会・音楽・美術関係を含む)	A	学年を中心に概ね、取り組めたと思う
中学入試の実施と入試実施に関する諸問題の検討 (体験学習会・模擬テストを含む)	B	体験入試と模擬テストを2日に分けて、2次入試の日程の変更などを概ね、できたと思う。
保護者会との協力	A	概ね、保護者会の連絡等、協力的にできたと思う。
部活動面の充実に繋がる取り組み (クラブの再編や中1の入部時期など)	B	部活動は充実しているが、クラブの再編や中1の入部時期などの課題解決はできなかった。

⑥生活指導

(生活指導部)

分掌目標	生徒に規範意識を持たせる指導		
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題	
生活指導マニュアルの実践 本校全職員による統一された指導の実践	C	校則を知っていても、教員の側が、これ位よいという意識を持っている先生がおり、統一した指導ができていなかった。 生活指導マニュアルを配るだけでなく、教員側が意識してもらえるように、お願いを続ける。	
重点指導課題 頭髪（奇抜な形）・服装（シャツ・化粧） 遅刻（5分前行動）・携帯（校内使用） 考査規定の遵守（不正行為）	C	女子の前髪カールや化粧、遅刻といったことが守れていない生徒も多い、生徒に心からの意識改革を続けさせると共に、先生全員が、意識した注意が出来るようにしなければならない。 また、考査規定の遵守をさせるために、考査に入る前より、考査監督の先生が考査規定をよく守り、5分前から生徒を自席につかせて生徒には十分に注意をし、考査中も机間巡視も積極的に行わなければ防げない。	
生活指導部の役割の明確化 担任および学年中心の指導体制構築 生活指導部は指導の助言とサポート	B	学年主任が中心となり、色々な事にあたっていただいているが、中学は学年中心となり対応していただいているが、高校は学年の先生の中で、指導に対し、消極的などの状態で生活指導中心の指導となっている場合が多い。	
生活指導部組織改編による課題 本館と7号館との分立・人員削減による影響 担任外の先生、女性教員が少ない為、部長、（中高）主任、（高）主担だけでは対応しきれないほどの多種多様の問題行動	D	組織改革の中で、中高共に人員が不足していたが、特に中学及び女子教員、そして担任外の先生が不足していることにより、非常勤の女性の先生に業務をお願いし、その方々に過重な負荷がかかっている。出来るだけそれを防ぐ抜本的な人事が必要。	

⑦入試対策

(入試対策部)

分掌目標		建学の精神や学校内外の環境から共学校としての新たなコンセプトを打ち出し、安定した生徒募集につなげる。	
重点課題		評価	成果と課題
① 「学校案内」(ポスターを含む)等冊子の作成について		C	*多くの保護者・生徒にとってまずまずとも言えるが、もう少し完成度の高いものを作りたい。 *「学校案内」の完成時期を早めたい。
② ホームページの活用および効果的な広報媒体の研究		C	*クラブ活動のページはほとんど機能していない。 *ホームページの考え方を、全職員で統一されていない。 *入試対策部が現在、広報に関しても中心になっているが、他校のように事務所で取り扱うという方法も考えるべきである。 *リニューアルできたが問題点が多々ある。
③ 中学体験学習会・プレテスト会の円滑な運営とさらなる充実		B	*体験学習会からプレテストにつながるような運営をしたい。 *円滑に実施できた。 *プレテストの個人票をさらに検討していきたい。
④ 入試説明会の日程、内容の吟味とプレゼンテーションのあり方についての研究		B	*他校の説明会に参加しての研究。 *説明時間の短縮の検討。 *担当者の人数増員を検討。
⑤ 塾対象説明会についての検討		B	*学校での実施を考えるべきだが、現状では難しい。 *レジュメを全職員に配布できた。 *日程を変更するのが難しい。

⑥ 塾・中学校訪問を中心としたより効果的な 営業戦略の研究	C	*前年度通りのことはできたが、営業戦略 まで考えることはできなかった。 *入学生徒の出身塾、在校生の現状報告、 進学先をデータベース化できなかった。
⑦ 重要情報の学内への公開、情報の共有化を 図る	C	*職員会議を通して上宮の外部での評価を 報告できなかった。 *なかなかうまく情報を共有できなかった。
⑧ キャラクターやロゴ等を使った学園全体 の広報システムのさらなる検討	C	*他校研究はほとんどできなかった。 *入試対策部の方向性を深く考えることが できなかった。 *キャラクターを考案できなかった。
⑨ 建学の精神を中心に据え、共学校としての ブランドコンセプトを構築する	B	*上宮らしさを追求しながら、成績を維持 し、高等学校は入学者を確保できた。中 学校は中学校のコンセプトを 提案することができなかった。 *大学進学実績をアピールできなかった。

⑧保健管理

(保健管理)

分掌目標	心身の健康を保持増進させ、より健康な生活を築いていこうとする意欲と実践力を育てる。		
重 点 課 題		評価	成 果 と 課 題
1. 生徒の定期・臨時の健康診断の計画及び実施		B	学校行事として各分掌と連携し、協同して行うことができた。
2. 教職員の健康診断の計画及び実施		B	各分掌と計画通りに行うことができた。 教職員の健康診断受診率は高い。 今後、メンタルヘルスチェックをするのが課題である。
3. 心疾患・アレルギーなど身体的配慮を要する生徒及び、配慮・支援を要する生徒への対応、情報の共有		B	保健調査票、宿泊時の事前アンケートからの情報を担任、学年、人権と共有することができた。 今後も、該当生徒へは、十分な対応を心がける。
4. 学校管理下における生徒への救急処置 教員対象の救急救命法		B	生徒の救急処置数は、内科的処置2,688件外科的処置2,530件であった。昨年度より増加している。今後も速やかで確実な実践をめざす。 職員の救急救命法は、多数の参加があり、熱心に取り組んだ。
5. 性教育を含めた保健指導		C	生徒の理解度を図れなかった。次年度は、講師を含めて検討していきたい。
6. 疾病及び感染症の予防		C	保健指導が充分でなかった。今後啓蒙活動に力を入れたい。
7. 宿泊を伴う学校行事における生徒の事前		B	事前に保護者、担任、関係機関と連絡をとり、実践できた。今後、増加する個別対応に態勢を

指導、関係機関への連絡、及び引率		整えたい。
8. 学校環境衛生の管理	C	産業医、学校薬剤師、事務局と連絡を取り、実践できた項目が少なかった。さらに、環境衛生向上について実践できるよう努力を続けたい。
9. 日本スポーツ振興センター事務手続き	B	学校災害給付金の内訳は、中学 581,410 円、高校 4,380,980 円であった。昨年度より、増加している。今後も速やかな請求を図りたい。

⑨教育相談

(教育相談)

分掌目標	個々人のスキルアップ及び支援体制の確立を目指す。	
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題
①相談業務 ・生徒・保護者へのカウンセリング ・教員へのコンサルテーション ・メールによる関係づくり ・学校への不適応を呈している生徒の把握(案) →欠席日数のチェック	A B	○カウンセリングやコンサルテーションするに当たって、更なる研修・研究を必要とし、それらを実施していく方向である。 ○不登校状態を呈している生徒の把握(案)に関しては、担任・教務との連携を今後考え、実施していく方向である。
②学校に行きづらい子どもの「親の集い」	A	○保護者の心理的安定に伴い、保護者の子どもを支援するスキルの獲得が進んでいる。
③発達の違いを持つ子どもの「親の会」	A	○保護者同士の交流が深まり、子どもを支援するための情報交換が進んでいる。
④保護者・教職員のための勉強会	A	○外部講師から青少年の自立をテーマに研修を実施し、概ね好評であった。
⑤教育相談係 HP の活用	B	○HP が開設され、今後、活動実施内容や広報を中心に掲載したい。
⑥広報 ・教職員向け…カンファレンス、「親の集い」、「親の会」「親の勉強会」「保護者・教職員のための勉強会」といった係活動の認知 ・保護者向け…「親の集い」、「親の会」「親の勉強会」「保護者・教職員のための勉強会」といった係活動の認知 ・生徒向け…オリエンテーション時における係活動の認知 ・外部向け(案)…「保護者・教職員のための勉強会」の案内を塾を介して上宮に関心のある保護者への伝達及び近隣の公立小・中学校を介して保護者への伝達	A A	○教職員向けは職員会議での連絡、保護者向けでは紙媒体だけでなくメール配信により広報ができた。 ○外部向けの「保護者・教職員のための勉強会」の広報は、入試対策部と連携し、近隣の中学校に通う保護者へ行った。その結果、4校の学校から数名の保護者が参加された。今後、小学校にも広報の範囲を広げたい。

⑦外部機関（医療，外部相談所など）との連携	A	○面接で医療が必要と思われた方々を連携する医療機関につなげることができた。
⑧保護者会との連携 ・保護者のニーズに応えられる講演テーマであれば「保護者・教職員のための勉強会」での連携が可能	D	○今年度は保護者会と連携が取れなかった。
⑨保健管理部門との連携 ・事例の共有化 ・学校精神保健への協働 ・「ほけんだより」での連携	B D	○保健室から1人，係に配属され事例の共有化が進んでいる。今後，さらに学校精神保健の充実に努めたい。 ○今年度「ほけんだより」の発行がなく，連携ができなかった。
⑩学年会との連携 ・情報の収集 ・不登校や発達の偏りのある生徒の担当者会議の実施 ・支援シートの作成	A A	○不登校や発達の偏りのある生徒を持つ担任との連携は進んでいる。また学年団と連携をし，担当者会議の実施も進んでいる。 ○今年度は4名の支援シートの作成を行った。今後は人権とともに作成に取り掛かりたい。
⑪「不登校を考える会」会報の配布	A	○配布する他，配布した際，教職員から生徒・保護者に関する種々の情報を入手でき，活動に役立てることができた。
⑫大阪私学カウンセリング研究会の業務	B	○平成25年度，26年度，27年度とカウンセリング研究会の当番校を担った。現在の人員，授業時間の多さから業務が滞るところがあるのが現状。 ○本校から大阪私学全体へ研究会の情報を発信し，さらに充実した研究会を目指すようにしたい。

⑩データ処理

(データ処理室)

分掌目標	データ処理業務の遂行		
	新入力システムの開発		
	学校業務効率化のためのプログラム開発		
重 点 課 題		評価	成 果 と 課 題
入力システム等の新規プログラムの作成		A	プログラムのメモリー消費の解消 処理速度の向上
入試業務の遂行		A	中学入試、高校入試共に出願から合否発送業務、入学までの流れにおいて一部問題はあったが無事終了。 問題点においてはそれを回避するプログラムの開発が完了。 発送業務のスピードアップができた。
通知表を含む考査データ等の担任への配布		A	毎回問題なく配布

⑪生徒会

(生徒会)

分掌目標	学校行事・生徒会業務の内容と効率の見直し		
重 点 課 題		評価	成 果 と 課 題
生徒会予算の健全化		A	前年度繰越残高が 200 万円台まで落ち込んでいた今年度 140 万円ほどプラスで繰り越すことが出来た。毎年の繰越残高 500 万円を目標としたい。
上宮フェスタの内容の見直し		B	体育の先生方のおかげで間延びすることは無く予定通り終えることが出来た。来年度は実施の有無まで精査すべきイベントだと思われる。
体育大会の運営の体系化		C	種目の見直し、運営のやり方をまったく見直すことが出来なかった。出来れば準備や話し合いの時間を考えると、時期は年度の中盤から後半へ移したい。
文化祭の運営の体系化		C	例年通りという習慣で、担任教諭の規範統一が出来なかった。話を聞いていない教員、もしくは聞いた上でも自己判断で好き勝手動く教員への指導が必要。
その他生徒会管轄の業務・行事の見直し		A	クラブ予算を扱う口座を公式で作ることが出来た。まだ問題は出てくると思うが、私費と工費の混同が少しは防げられる。

⑫人権教育

(人権教育)

分掌目標	共に育む人権（お互いを思いやる気持ちを大事し、共にいたわり、痛みを分かち合いながら歩もう）		
重点課題	評価	成果と課題	
中学校1年人権教育LHRについて 入学時「いじめ」についてのアンケート実施 2・3学期に「いじめ」アンケート実施	B	担当・学年の御協力を得ることができました。 計画通り実施。実践報告はPenta200の人権教育ホルダーに全て報告済。	
中学校2年人権教育LHRについて 学期ごとに「いじめ」アンケート実施	B	担当・学年の御協力を得ることができました。 計画通り実施。実践報告はPenta200の人権教育ホルダーに全て報告済。	
中学校3年人権教育LHRについて 学期ごとに「いじめ」アンケート実施	B	担当・学年の御協力を得ることができました。 計画通り実施。実践報告はPenta200の人権教育ホルダーに全て報告済。	
高校1年人権教育LHRについて 入学時「いじめ」についてのアンケート実施 2・3学期に「いじめ」アンケート実施	B	担当・学年の御協力を得ることができました。 計画通り実施。実践報告はPenta200の人権教育ホルダーに全て報告済。	
高校2年人権教育LHRについて 学期ごとに「いじめ」アンケート実施	B	担当・学年の御協力を得ることができました。 計画通り実施。実践報告はPenta200の人権教育ホルダーに全て報告済。	
高校3年人権教育LHRについて 1・2学期に「いじめ」アンケート実施	B	担当・学年の御協力を得ることができました。 計画通り実施。実践報告はPenta200の人権教育ホルダーに全て報告済。	
私学人研 第4部会 幹事校について	B	幹事校に伴い、人権教育係の先生方にご協力を頂きました。	
年2回の人権教育教職員研修について（5月） （講師：私学人研指導員 浅野幸一さん） （内容：「同和教育から人権教育へ ～私学人権のあゆみから～」	B	計画通り実施。教職員の多数の参加で研修を積むことができました。	
年2回の人権教育教職員研修について（3月） （講師：関西学院大学 教授 米山直樹さん） （内容：2016年4月に実施される「障害者差別 解消法」に伴い学校が求められる合理的配慮	B	私学人研 秋期新任研修会（第4部会）と日程が重なったため、3月2日に延期し実施しにしました。教職員の多数の参加で研修を積むことができました。	

について)		
-------	--	--

⑬図書・視聴覚教育

(図書館・視聴覚教育係)

分掌目標	貸出し冊数を増やす・教室に入れない生徒の教室復帰に協力する		
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題	
女生徒のニーズを捉えて貸出し冊数の増加を図る。	A	今年も女生徒を意識した選書を実施したので、女子生徒の貸出が増えた。女子大の赤本、進路の本も含めて。	
高校3年生の参考書・問題集の貸出冊数の増加を図る。	B	最新の参考書・問題集を生徒・教職員・ネットから情報を得て、購入した。貸し出しも増加した。	
7号館の高2生徒の利用・貸出増加を図る。	B	昼休みに高2生徒は図書館に来れないので、高2生徒の図書館経験が減っているため、利用度、貸出増加は困難である。放課後は増えた。	
教室に入れない高校生の教室復帰に協力する。	B	今年も教室に入れない生徒の教室復帰に協力した。入れない生徒にとって図書館は居心地のよい環境になっていると思うが、それだけでは成果は上がりにくい。	
教室に入れない中学生の教室復帰に協力する。	B	中学生の教室に入れない生徒の数は今年は少なかった。	
中学生の利用・貸出しの増加を図る。	B	特に、今年の中学生の本の貸出が少なかったが、中3の特定のクラスだけが多かった。中1は朝読を実施しているが、それが波及していないのはなぜか不明である。	
中学生の朝読に協力する。	B	朝読に協力するために、中学生が読みたい本を揃えるよう選書に注意する。また担任との協力関係を強める必要がある。	

中学生にとってよい図書館としての環境の整備を図る。	B	図書館を利用する生徒は、数の多い高校生が主体となるので、中学生が利用しやすい環境を作りたい。
中高生の図書館マイレージの参加を積極的に呼びかける。		
快適度 設備（広さ・空調など） 施設（ロッカー） （机） 書架	A	購入してから 37 年経過した閲覧室のイスを 30 台以上ぐらつきなどを修理した。卒業生が遺して行ったパーソナルロッカーを約 26 台、貰い受け、ロッカー不足の時に使えるようにした。
安全度 耐震設備（07 春に完成） 防火（消火栓 2 ヶ所・消火器 3 あり） ライブカメラ 5 台	A	ライブカメラを設置したことによって、生徒が靴を間違われた時に、すぐに録画を確認し、間違えた生徒が特定できるようになった。生徒は喜んでいる。
OA 度 図書館管理システム ノートパソコン（生徒用） セキュリティ ホームページ フィルタリング	A	ホームページを継続してアップしているので、HP を見て、外部の新聞社などから取材の申し込みがあった。毎日新聞や朝日中学・高校生新聞。
サービス コピー機 リクエスト制度 8 時までの開館延長	A	8 時までの延長サポートは図書館マイレージとセットで行っているが、昨年度より大幅に 100 P 達成した生徒がでた。総計 300 p を獲得した生徒が 2 人出たのは驚異的である。マイレージが生徒に受け入れられた結果。
利用度 図書・DVD の貸出数 昼休み・放課後利用者数	A	昼休みの利用度は 7 号館の設置から減少傾向にあるが、放課後の利用度は増加している。特に女子生徒の増加が目覚ましいので、入試結果も女子力で上昇するかもと考えている。
附属特別教室 会議室 特別書庫 職員研究室・ビデオルーム	C	図書館付属の会議室などの特別室は、教育実習ほか入試編集に使われている。それは結構であるが、本来の目的に使われるのは年に半分しかないのは問題ではないか。
学校行事 中・高入試関連 文化祭展示 図書館をさらに魅力的にする努力・他の学校行事	A	文化祭の図書館独自の展示は今年で、8 年目？くらいになる。HP にアップする事で上宮文化を世間から注目を浴びている。

蔵書 中高 蔵書 中高 視聴覚蔵書	C	ビデオルーム・視聴覚教室にあるVHSが古くなって、DVDなどに比べて利用度が全くない状態になってしまった。
図書委員	C	他の学校図書館の司書教諭に図書委員の現状などの情報を聞いている。
図書館マイレージ	A	図書館マイレージの参加者や達成者は年々増加している。放課後の利用者は多い。意識の高い生徒の受け皿として認識されている。
8時までの開館延長	A	夜8時まで残っている生徒もかなり増加した。特に定期考査の前頃は60人以上残っている。
卒業生のパネル展示	A	正面玄関と図書館入口にパネルを掲示しているが好評である。これに伴い新しい卒業生の情報も入ってくるように。卒業生の情報が同窓会報に利用されるのは嬉しい限りである。
上宮文庫	A	現在、上宮文庫に登録されている図書は284冊になった。毎年、かなりのペースで増加している。
司馬遼太郎文庫	A	約1000冊弱になった。最近は司馬文学の研究書も増えているので、対応がひつようである。また、保護者にも関心がある方も多い。
ホームページ	A	年に前後期2回更新している。もっと更新したいが、諸事情でできない。
文化的催し・展示	A	展示用ガラスケースで現在は卒業生を中心に色紙を展示している。興味を持つ生徒も多い。
教育掛図	A	今年度もHPで掛図を研究している研究者が見学に来た。重要な上宮文化の一つである。
図書館報	A	中高各6回ずつ発行している。一年の時期に遭った情報を館報で広報している。
ビデオルーム	C	VHSが古くなったこと、入試編集のために半分の日程が使えない事などにより、活動としては不十分である。

予算	B	これ以上の減額は図書館の活性化につながらない。
----	---	-------------------------

(視聴覚・視聴覚教育係)

評価項目	評価	課題
快適度 設備・TV モニター・プロジェクター・スクリーン・他の音響・映像・音響機器・冷暖房	B	床のカーペットは古いままだが、視聴覚機器は新しくなったので、快適度は上がったが、冷暖房の調整が難しいので、教職員・生徒の満足度は低くなる。
安全度 耐震 防火設備	A	テレビモニターの新しくなったので、安全度は高いと認識している。
教室の机・椅子・カーペット	B	カーペットは擦り切れたままである。早急に修理するか、通常ならば貼り直す必要があるだろう。椅子は生徒のネジを緩めるなどのイタズラがある。落書き、食べ物カス袋は少ない。
準備室の利用状況	B	利用記録ノートもまあまあ書いてもらっているようだ。
附属アナウンス室利用状況	C	アナウンス室として活用されていない。倉庫状態である。
所蔵資料（ビデオ・DVD）の利用状況	C	VHSが多く、利用率は低い。
終業点検の当番の実施	A	図書館・塩聴覚教育係が一週間ごとの当番で記録ノートに厳しくチェックしているので、現状に異常があればすぐにわかる体制がとられている。

職員会議などの利用状況	A	職員会議・組合などの会議、入試などの控室に多く利用されている。たまに照明・鍵などの消し忘れ・かけ忘れがある。
他校を交えての会議などの利用状況	A	外部のクラブなどの会議などに多く利用されている。照明・鍵のかけ忘れなどは無い。
授業以外の生徒の利用状況	A	生徒が利用する時は、ほとんどの場合、授業時に使っているので、それ以外は待ったに無いし、その場合は付添いの先生の監督があるので問題はない。

V 総 括

上宮中学・高等学校
校長 田 中 裕 史

学 校 経 営 の 基 本 方 針	具 体 的 方 策
本校は、この冊子の冒頭にある「上宮中学・高等学校の教育理念」に基づき、創立以来、125年の歴史を刻んできた。長年培ってきた上宮教育を女子にも開放し、社会に貢献できる人材育成を目指していききたいとして、中高ともに男女共学校に移行し5年目を迎え、共学三期生の卒業生も送り出したところである。今後も「建学の精神」と「教育目標」は変わることなく、校訓「正思明行」のもと、上宮教育の真髄である「知育」、「徳育」、「体育」のバランスのとれた学校祖 法然上人 の教えに基づく全人教育に邁進し、共生社会の実現に向けた人材を育てていきたい。	学校の教育理念に基づき、各分掌・組織が合理的、発展的に機能するためには、分掌・組織が「建学の精神」と「教育目標」をよく理解し、自らの現状を把握・認識して、「課題と目標」を理解した各教員が、個人目標シートの「個人目標の設定」に落とし込み、部門の主任のアドバイスを受けながら個人の努力に励むことが柱となる。 例年通り平成27年度も自己評価、授業評価アンケート、生徒アンケート、保護者アンケート、関係者評価を実施した。今後もこれらの作業内容を外部に公表し、保護者や地域の人々に、生徒の成長と教職員の努力等を理解して頂き、学校への信頼をさらに確かなものにしていきたいと考えている。

総 括（成果と課題）

生徒アンケート、保護者アンケート共に担任指導という点では高い評価を得ているが、学習指導面では、まだまだ十分とはいえない状態である。家庭での生徒の自学自習の時間を延ばして行くことが急務と心得る。その為にも本年度作成した教育プランやシラバスの活用を通じて組織的に学力向上策を講じていきたい。

平成27年度は、平成26年度2学期からはじめた大学合格講座を充実させ、更なる進学実績の向上に向けて取り組んできた。この大学合格講座を更に展開すると共に、教科指導の充実に励み、生徒の学力向上に更に力を注ぎ、進学校・共学校としての上宮の地位を確立していかなければならない。